

# 恵庭市生涯学習施設 かしわのもり



## ■ 建築概要

所在地：北海道恵庭市大町 敷地面積：1,988 m<sup>2</sup>  
主な用途：地域交流センター 建築面積：1,017 m<sup>2</sup>  
延床面積：912 m<sup>2</sup>

## ■ 計画概要

住宅地におけるコミュニティセンターの計画。地域の子どもの学びの場となる施設をつくることが強く望まれており、特に本計画では次のような機能が求められた。

- 【①交流機能】地域の住民や市民の居場所をつくる。
- 【②学習機能】図書を通じて、地域住民が次世代の子ども達を育む場。恵庭市の伝統を受け継ぎ、地域の歴史を伝承する場。柏地区に残された貴重な自然を受け継ぐ。
- 【③運動機能】地域の住民や子ども達が、武道や軽スポーツができる場。



住民・市・大学協働のワークショップ

## ■ 背景・コンセプト：地育

現在の地域コミュニティは日常的な人と人とのつながりは希薄であり、個人の孤立感が高まっている。一方で、従来型の形式張った地域活動は外から入りづらく敬遠されてしまいがちである。このような背景から、

- ・気軽に立ち寄ることができる
- ・偶発的な出会い
- ・何となく感じられる他者の動き

といった、人と人が自然につながりを感じることができる地域コミュニティのゆるやかさが求められる。





## ■ 平面計画

本計画は地域の子どもたちを育む施設として、運動、大人数が集まるレクチャー、個人での学習や読書など、複数の異なる活動の場としての「自立」した居室と、地域のコミュニティ施設として、利用者がつながりを感じられる、地域全体で子どもたちを育てていることを意識させる「一体感」が求められた。これら相反する2つの要素を実現するために、①斜めの軸②建築ヴォリュームの分節③本の回廊④既存樹木との共生の4つの手法を用いて建築を構成した。

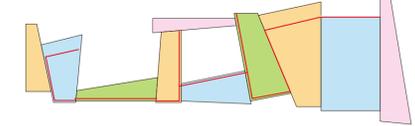
### ① 斜めの軸

ひとつの居室で活動が完結せず、動きのある空間となるよう、斜めの軸線で建築空間を構成する。



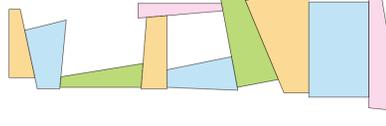
### ③ 本の回廊

各居室と一体的な約100mの本棚が連続する「本の回廊」を施設の中心として計画する。



### ② 建築ヴォリュームの分節

周囲の住宅地との調和や各居室の機能の独立性のため建築を居室ごとに分節し、配置する。



### ④ 既存樹木との共生

敷地内の樹木を残して建築を囲うように配置することで樹木をシンボルとして利用する。

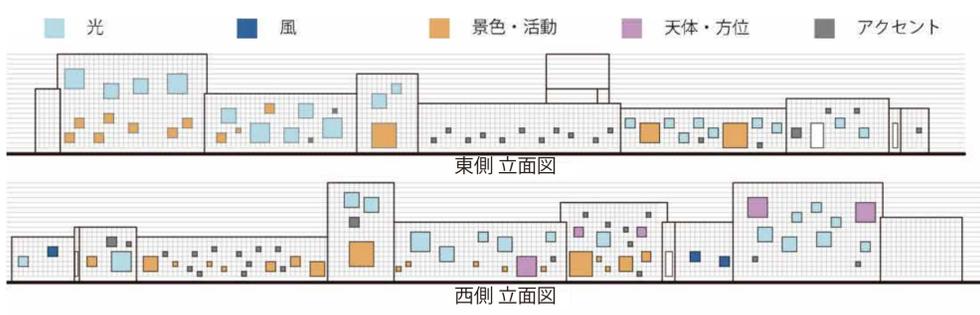


## ■ 開口デザイン

開口は、本棚と馴染むよう全て正方形で構成した。建築に期待される多様な機能から、開口部の持つ意味をA 光、B 風、C 景色・活動、D 天体・方位、E アクセントの5要素に整理し、それらに合せて開口の大きさと位置を決定した。

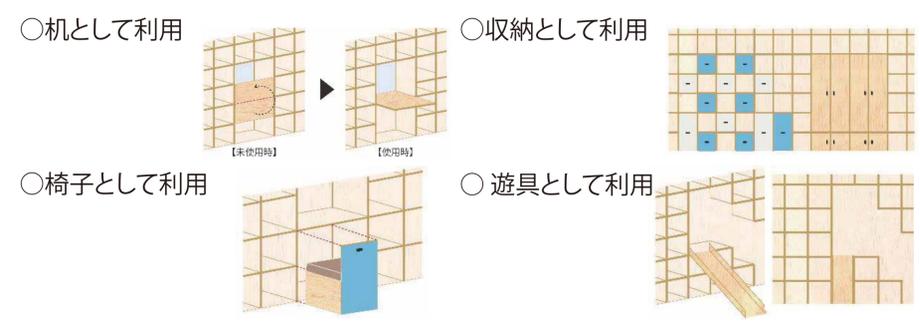
A	採光	800~1600mm	C-4	内側の活動を見せる	2000mm
B	通風等	800mm	D-1	天体(夏至等)	800~1200mm
C-1	子どもの視線	400~800mm	D-2	ストックホルムの軸	1600mm
C-2	大人の視線	400~800mm	E	動線	扉
C-3	樹木(サクラ等)	1200~2000mm	F	アクセント	400~800mm Fix

5要素と開口の大きさ



## ■ 本棚のデザイン

建物全体をめぐる本棚を利用し、各居室の機能によって求められる家具(机、椅子、収納、遊具等)を設計した。



## ■ 色彩計画

柏の葉の「緑」、隣接する敷地の池や空の「青」、夕日の「黄」という、柏地区や敷地の持っているイメージをベースカラーとした。

ベースカラーから本棚の木材や家具関係と相性のいい色をテーマカラーとし、「本の回廊」として施設をつないでいる本棚に対して、各諸室のそれぞれのボリュームごとに空間の差異をつける。

